

平成30年度学校評価計画に対する最終評価報告書

石川県立金沢向陽高等学校

重点目標	具体的取組	実施状況の達成度判断基準	集計結果	分析及び次年度の扱い（改善策等）
1 基本的生活習慣の確立 規範意識を高め、遅刻欠席をしない、挨拶をきちんとするなど基本的生活習慣の確立した生徒を育てる。	① 遅刻の防止 全職員による登校指導や頻回者への意識改革指導を通して、基本的な生活習慣を確立する。	遅刻者が1日に A 4人以下 B 7人以下 C 10人以下 D 11人以上 29年度 5.4人	B 4.6人	昨年度に比べると0.8ポイント下がったが、まだまだ多いと思われる。今年度9月までは平均が3.5人であった。進路決定後の3年生の遅刻をいかに減らすかが課題であり、早朝遅刻指導などによりその改善に努める。
	② 欠席の防止 きめ細かな指導や保護者との連携等により、欠席を減らし、学習意欲の向上を図る。	欠席者が1日に A 10人未満 B 20人以下 C 30人以下 D 31人以上 29年度 19.8人	B 14.8人	昨年度に比べると平均5人の減少であるが、安易に欠席をする生徒が少なくなく、本校の重要課題と捉えている。進路決定にも影響があることを認識させ、保護者の協力も得ながら欠席数を減らしたい。
	③ 決められたルール（校則等）をしっかりと守る。	私は校則等のルールをしっかりと守っている。 A よくあてはまる B ほぼあてはまる C あまりあてはまらない D あてはまらない 29年度 89%	A+B 91%	生徒自身は校則等のルールをしっかりと守っているという結果であるが、教職員はそれほどでもなく評価は一致していない。次年度も実社会で必要とされる公共マナーについて行事や集会を通して規範意識の向上に努めたい。
	④ 交通事故の防止 登校指導や警察等の連携により交通ルールの遵守と正しい交通マナーの実践を習慣づける。	交通事故が A 0人 B 1～3人 C 4～6人 D 7人以上 新規	C 5人	今年度初めて設定した取組である。交通事故に遭った5人は、いずれも登下校時に車との接触事故を起こした。今後とも交通ルールの遵守と交通マナーの実践を習慣づけていきたい。
	⑤ 個人面談を充実させ、生徒の様子を観察し、いじめ等の問題に相談室、学年、生徒課を中心に全職員で連携しながら迅速に対応する。	各課、学年が連携をとりいじめ等の問題を抱えた生徒の早期把握と対策がとれている。 A よくあてはまる B ほぼあてはまる C あまりあてはまらない D あてはまらない 新規	A+B 73%	本校生徒は大勢の前では口数が少ないが、1対1だと思っていることを話すので、生徒の状態を把握するには個人面談が有効と思われる。友人同士の些細な食い違いから教室には入れなくなる現状を踏まえ、年間数回の個人面談の充実が必要不可欠である。
学校関係者評価委員会の評価	<ul style="list-style-type: none"> 遅刻、欠席については、昨年度よりよくなってはいるが、まだまだ多いように思う。安易な遅刻、欠席が減るよう継続指導を望む。 大場町会の佐那武神社交差点は非常に見通しが悪く、接触事故が多い交差点である。町会で信号機の設置を要望したが、おそらく実現しないであろう。危ない交差点として注意してほしい。 			
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方針	<ul style="list-style-type: none"> 生徒ひとり一人にきめ細かい指導を実践すべく、本校の特徴である二人担任制を今後も継続していく。 登下校時の車との接触事故0を目指して挨拶運動や自転車乗車マナー指導を活かして交通マナーの実践に力を入れていきたい。 			

重点目標	具体的取組	実施状況の達成度判断基準	集計結果	分析及び次年度の扱い（改善策等）
2 授業改善と3年間を見通した進路指導 落ち着いた学習環境のもと学習意欲と基礎学力の向上を目指し、3年間を見通した進路指導の実践により生徒の進路実現を図る。	① 復習や予習を促し、家庭学習の習慣化を図る。	授業以外の学習時間が「90分以上」の生徒が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満 29年度 33%	D 27%	この取組の結果は過去3年間とも30%前後の生徒しか学習時間90分以上を達成できていない。定期試験前でも家庭学習時間が0の生徒がいる。本校の最重要課題である学習時間の確保について改善策を検討していきたい。
	② 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を推進する。	授業を理解できるとする生徒が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満 29年度 68%	B 71%	過去3年間、授業が理解できるとする生徒の割合は順調に増加しており大変よい傾向にある。同窓会の寄付により各教室にプロジェクターが設置され、ICT機器を活用した授業実践の成果が少しずつ現れてきていると思われる。
	③ 3年次生の進学希望者に対し、個々に応じた指導を実践し、進路実現を図る。	第1志望校への進学が実現した生徒が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満 29年度 88%	B 82%	第1志望校への進学を実現できなかったのは看護系の専門学校志望の生徒を中心に受験準備不足が原因であった。看護系志望を含め、生徒に対する早期からの学習指導支援体制の確立が今後の課題である。
	④ 3年次生の就職希望者全員の就職内定100%を目指す。	学校紹介による就職内定率が A 95%以上 B 90%以上 C 85%以上 D 80%未満 29年度 98%	A 100%	就職希望者には、インターンシップ・マナー指導・応募前見学・模擬面接等を計画的に行い就職内定率は100%であった。来年度も情報収集を含め、計画的に指導を行い社会人としての意識改革に努め、生活態度の向上を図りたい。
	⑤ 総合的な学習の時間やホームルーム活動、学校行事、日々の授業を通してキャリア教育を推進する。	キャリア教育に関する行事についてのアンケートで、肯定的な結果が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満 29年度 64%	C 69%	3年間を見通したキャリア教育を実施し、それをキャリアプラン・金沢学発表会につなげている。しかしながら、それらの取り組みを自分自身に関係することとして受け止められず、受動的・消極的になってしまう生徒が少なくない。自ら考え、行動する姿勢を育てていきたい。
学校関係者評価委員会の評価	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭学習時間の目標設定90分は妥当なのか。90分が無理であるなら30分でもいいのではないか。 ・定期的な宿題や漢字検定への取り組みを強化することによって家庭学習時間が増えるのではないか。 ・生徒が授業に集中しかつ家庭学習時間を増やすには、1年次から将来を考え目標設定をさせる必要があると思われる。 			
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方針	<ul style="list-style-type: none"> ・定期的な個人面談を充実させ早期から将来の進路目標を明確にさせていきたい。 ・ICTの有効な利活用やアクティブ・ラーニングの視点に立った授業改善を図り、わかる授業の実践に力を入れていきたい。 			

重点目標	具体的取組	実施状況の達成度判断基準	集計結果	分析及び次年度の扱い（改善策等）
3 部活動の充実 全員加入による部活動の一層の活性化を推進し、心豊かな人間性と社会性を身につけた人材を育成する。	① 新入生全員が部活動に加入するよう指導し、かつ継続的なものにするため、中途退部者に対しても、面談等を通して他の部活動への再入部を強く勧めていく。	1・2年次生の部加入率が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満 29年度 61%	B 78%	入学時に1年次生に対して部活動への加入を指導したことで加入率が上がった。特に、女子生徒の文化部への加入人数が増加した。一方で折角入部した運動部を退部する生徒が多く学校活性化のためにも今後の課題となっている。
	② 積極的に部活動の指導に携わり、学校の活性化に寄与していく。さらに、部活動の指導力向上にも務める。	部活動の指導について 29年度 69% A 積極的に支援し指導している B 概ね支援し指導している C あまり支援したり指導していない D 殆ど支援したり指導していない	A+B 76%	部活動顧問に対する働き方改革が叫ばれている中、本校教員は技術指導だけでなく人間性の向上等の観点からもよく支援指導している。今後も、生徒が充実した学校生活を送れるように部活動を通して指導していきたい。
学校関係者評価委員会の評価	<ul style="list-style-type: none"> ・バドミントン、アーチェリー部を中心に部活動を活性化し、学校を盛り上げていってほしい。 ・生徒数減のため単独チームで出場できない部があるが、他の部から選手を借りてでも単独で出場できないか。 			
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方針	<ul style="list-style-type: none"> ・1年生は部活動全員加入を実施しているが、総体明けには運動部を中心に退部する生徒が出てくる。安易に退部する生徒の歯止めができないか、生徒会室を中心に考えていきたい。 			

重点目標	具体的取組	実施状況の達成度判断基準	集計結果	分析及び次年度の扱い（改善策等）
4 地域交流の促進による学校の活性化 生徒のボランティア活動や学校開放及び情報発信などの地域交流を通して、保護者や地域に信頼され評価され	① ホームページの更新を分掌ごとに行うとともに、学年だより等による情報発信も行う。	保護者がホームページを定期的に閲覧する。 A 60%以上 B 50%以上 C 40%以上 D 40%未満 29年度 23%	D 23%	昨年度に続き、今年度も低い数字になったが、閲覧回数は昨年より年間で約1万回増加した。今後も学校行事等、随時HPで紹介し、各部活動の大会成績や普段の活動状況などはこまめに更新して情報発信に努めたい。
	② 福祉施設訪問やボランティア活動の実施などを通して、地域との交流に積極的に取り組んでいく。	ボランティア活動など地域との交流に関する事業に A 積極的に参加している B 充分とはいえないが、おおむね参加している C あまり参加していない D 全く参加していない 29年度 51%	A+B 55%	昨年度より微増であるが一昨年度の86%には届かない結果となった。吹奏楽部恒例の湖陽町会夏祭りへの参加、JRC部を24時間テレビでの募金活動、生徒会中心の金沢マラソンの給水ボランティア等、取り組んでいる。学校全体では、周辺地域のボランティア清掃のみであるのが評価の低い原因と思われる。

る学校づくりを行う。	③	図書館を開放し学校と地域住民の交流を促進する。	地域住民が図書館の行事に参加する数が A 70人以上 B 50人以上 C 30人以上 D 30人未満 29年度 88人	A 101人	昨年度から13人増え図書貸出数は倍増した。今年度はホームページで蔵書・書籍検索等ができるように利便性を高めたことが増加の要因と思われる。今後も地域の読書センターとして愛好家に応える蔵書作りを行っていきたい。
	④	指導に関する情報交換や学校行事への参加等を通じて、保護者との連携を深め、保護者の学校への信頼を高める。	学校の指導に対する保護者の満足度が A 85%以上 B 75%以上 C 65%以上 D 65%未満 29年度 80%	B 80%	過去3年間とも保護者の本校に対する満足度は80%を超えている。学年を追うごとに学校への信頼が高まる傾向にある。今後もメール配信や学年通信を活用し、学校の教育活動について随時情報を提供し連携を深めていきたい。
学校関係者評価委員会の評価		<ul style="list-style-type: none"> 魅力ある学校づくりが伝わってくるようなホームページにしてほしい。 地域住民には本校のボランティア活動の実態が伝わってこない。 図書館の地域住民への解放は素晴らしい取り組みである。さらに蔵書をホームページで検索できるといい。 			
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方針		<ul style="list-style-type: none"> 1年間の閲覧数が7万回を超えている。さらにホームページの内容を充実させ学校をアピールしていきたい。 ボランティア活動において、地域との連携を密に取り組んでいきたい。 学校に対する保護者の満足度は高いがそれに甘んずることなく学校の特色を周囲にアピールしていかなければならない。 			

重点目標	具体的取組	実施状況の達成度判断基準	集計結果	分析及び次年度の扱い（改善策等）
5 ワークライフバランスを意識した働き方改革に取り組み、時間外勤務短縮に努める。	① 教職員の勤務時間調査を継続するとともに、働き方改革に対する意識の向上を目指す。	働き方改革を意識し、時間外勤務短縮に努めている。 A よくあてはまる B ほぼあてはまる C あまりあてはまらない D あてはまらない 新規	A+B 79%	9月の教員へのアンケートでは時間外勤務短縮に努めていると答えた教員は64%に留まった。時間外勤務が多い教員に対して昨年度のデータと比較した月別時間外勤務の個人表を作り配付し、時間外勤務の短縮に努めてもらいそれが年度末の評価向上につながった。
学校関係者評価委員会の評価		<ul style="list-style-type: none"> 教職員の働き方改革に対する意識は高いものの、仕事を持ち帰っている教職員がいるかどうかを調査するとよい。 一般企業でも働き方改革が進んでいて最低でも年5日以上の有休を取らなければならない。学校は周りに気を遣うこと無く休める雰囲気があるのか。 		
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方針		<ul style="list-style-type: none"> 働き方改革の意識はかなり浸透しているが、まだまだ月によっては80時間以上の時間外勤務の教職員がいるので勤務時間の短縮に努めていきたい。 部活動が理由で時間外勤務が増加している。土日や平日の休養日の設定を義務づけていきたい。 		